

中丹の教育

まなび通信〔府立学校版〕

京都府中丹教育局

第76号

令和8年7月27日



<https://www.kyoto-be.ne.jp/tyuutan-k/cms/>

全ての子どもたちが自立して変化の激しい社会を生きていくために

中丹地方中高連携推進会議(7月6日開催)

中丹教育局では、全ての子どもたちの「社会的・職業的自立」を目標に、幼児期から系統的に教育を進めることで変化の激しいこれからの社会を生きていく力の育成につながると考えています。そのため、キャリア教育・進路指導をテーマに、中学校と府立高校が連携を図ることを目的として、中丹地方中高連携推進会議を開催しています。こうした様々な連携の積み重ねが、教員の中高間理解や中高間の円滑な接続につながり、子どもたちが安心して学べる環境づくりや校種を越えた学びの連続性に結び付くことで、当局の学校教育の重点である「魅力ある学校づくり」の実現につながると考えます。

パネルディスカッション

管内の府立高校6校の先生方に、各校の新入生の様子、各校の生徒の現状をふまえて、生徒たちにどのような力を身に付けさせたいか、またその力を育成するためにどのようなキャリア教育に取り組んでいるか、さらにキャリア教育を行っていく上での課題や悩み等についてそれぞれ熱く語っていただきました。

高校によって抱える問題や課題はそれぞれ異なりましたが、主に総合的な探究の時間の探究活動を通して、キャリア教育で育成したい4つの基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)を生徒に身に付けさせようとしている学校が多くありました。

中学校の先生方にとっては、各府立高校が生徒にどのような力を身に付けさせたいと考えて様々な特色ある教育活動を行っているのかを深く知ることができ、今後の生徒の進路指導を行っていく上で大変役立つものとなったのではないのでしょうか。



研究協議

まず、中学校の先生方は自校の生徒の現状をふまえて、生徒たちにどのような力を身に付けさせたいか、またその力を育成するためにどのようなキャリア教育に取り組んでいるかについて整理し、グループに分かれて発表・情報交流しました。その後、中高それぞれのいろいろなキャリア教育の取組状況をもとにして、中高連携・接続の視点をもって自校のキャリア教育について今一度見直しました。

府立高校の先生方は中学校の様子やキャリア教育の現状について知ることによって、多くの学びや気づきが得られたのではないかと思います。

自校のキャリア教育についての見直しを学校全体に波及し、さらに学校全体で組織的にキャリア教育の見直しを行うことで、自校のキャリア教育の充実、系統的なキャリア教育の充実につなげていきましょう。



振り返りと今後の展望

府立高校の先生方より

- ・ 社会に出た人のキャリアを生徒に伝える取組はよいと感じました。生徒はキャリアのロールモデルや職業について知らないのが、卒業生講話などでできればよいと思いました。
- ・ 中学校で抱える問題や育みたい力を高校でも継続して取り組みたいと思いました。中学校で取り組んできたことを踏まえ、人間関係形成や社会に対応する力が養えるような学習の取組を各教科の授業にも反映させたいと思いました。
- ・ 高校として「社会的自立」に向けて「何が必要か」という支援の視点をもって指導をしていかなければならない。教員が粘り強く生徒に向かい、生徒自身に自信が付く取組の積み重ねが生徒の自己肯定感を高めることになる。
- ・ 中学校でのキャリア教育の取組とともに生徒の課題観を共有することで、高校入学段階の生徒が持っているだろう力を考える大切さを感じました。高校のみの視点ではなく、高校で取り組むべき課題の精査を図っていきたいと思います。

中学校の先生方より

- ・ 生徒に将来生きていく上でどんな力を付けたいか、どんな力が必要と考えているかを教員同士で語り合ってみよう。ロールモデルなど将来を見つめる講話などの体験を行っていきたい。また、子どもの持つ良さを本人たちに伝えていききたい。
- ・ 中学校の部会の中でキャリア教育について考え、交流する場を持ちたい。また、生徒に多様な経験をさせることや高校の先生との連携を大切にしていきたい。自校の課題を先生方で共有し、どんなことができるかを考え、生徒の思いを反映させ教育活動を行いたい。
- ・ 様々な教育活動の中にちりばめられているキャリア教育で身に付けさせたい力を整理し、他の先生方と共有し、自校の実践を見直していききたい。また、生徒にも「この力がキャリア形成につながっていく」ということを積極的に伝え、生徒が自身のキャリア形成に自信を持ち、夢や希望をもって挑戦しようと思えるようにしていきたい。
- ・ キャリア教育で育成したい4つの基礎的・汎用的能力について改めて教師間で共通認識を図りたいと考えました。自校の生徒の現状について話し合い、そのうえで生徒に身に付けさせたい力を確認し、その力を意識した上でキャリア教育に取り組む必要があると感じました。